

# HAT CROSS

神戸赤十字病院広報誌  
2010 vol.25

## オカリナの音色で七夕コンサート



神戸赤十字病院 会計課（広報委員）

杉原 通子

「歩こう」、「青い山脈」、「幸せなら手をたたこう」、「ふるさと」などの明るく元気の出るものでした。みなさんご存知の曲ばかりで、一緒に歌ったり、手拍子で参加できる場面もたくさんあり、とても楽しそうに聞かれていたように思います。オカリナについてもいろいろ教えていただくことができました。オカリナのやさしく美しい音色が、会場だけでなく病院全体に響きわたり、心地のよい優しい時間を過ごすことができました。

ロビーには、数日前から七夕の笹竹を置いておりましたが、願いごとが書かれたたくさんの方の短冊が飾られていました。みなさんの願い事が叶いますように・・・★



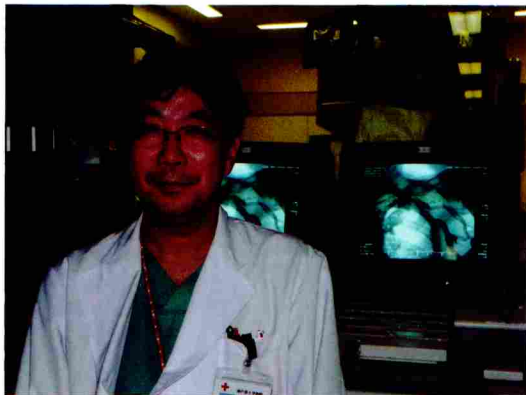
平成22年7月7日七夕の日、毎年恒例となっている七夕コンサートが当院一階ロビーにて行われました。

今回の演奏は、オカリナクラブ・アメリカの皆さんでした。普段聞くことのできないめずらしいオカリナの演奏を楽しみにたくさんのお客様のみなさんが開演前より集まってくれました。曲目は、「夏は来ぬ」、「琵琶湖周航の歌」、「われは海の子」、「浜辺の歌」など初夏を思わせる季節感たっぷりのものや、「上を向いて



オカリナ・アメリカの皆さん





土井部長

## 『循環器内科(循環器病)の 守備範囲とはなんぞや?』

土井 智文 循環器内科部長

### 循環器内科

このたび4月より循環器内科部長として着任いたしました土井智文でございます。今後とも地域住民の方々に密着した医療を行ってまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

それではそもそも「循環器内科(循環器病)の守備範囲とはなんぞや?」ということです。

#### 【虚血性心疾患】

これは動脈硬化によって心臓の筋肉を栄養する冠状動脈が、狭窄したり、閉塞したりする病気です。心臓の病気ではありますが、まさに動脈硬化、血管の病気です。

典型的な症状は、労作時の胸の絞扼感、圧迫感であります。諸検査を行い、虚血性心疾患の疑いがある場合は、血管造影を行い、狭窄部位を拡張する治療を行います。緊急性があれば夜間でも行います。

#### 【閉塞性動脈硬化症】

これは動脈硬化によって、下肢の血流が悪くなり、下肢のしびれ、痛み、皮膚潰瘍を生じる病気です。これも下肢動脈の動脈硬化による病気であり、必要であれば、動脈を拡張する治療を行います。

#### 【高血圧、高脂血症】

これらは上記動脈硬化性疾患の原因となる疾患であります。動脈硬化性疾患から遠ざかるためには、血圧、コレステロール、血糖などのコントロール、禁煙などが必要です。

その他、心筋症、弁膜症などがあります。お薬によりできるだけ、心臓の負荷を軽減して、バランスを保ちます。外科的治療も考慮します。

### スタッフ紹介



左から) 並木副部長、村田副部長、土井部長、五十嵐副部長、佐藤医師

#### 【不整脈】

心臓の脈拍の乱れのことです。急に速くなる脈、遅くなる脈、治療の必要なもの、治療の必要のないものなど多岐にわたります。諸検査を行い、重症度、治療の必要性を評価します。治療は薬物治療、非薬物治療(ペースメーカー治療など)などです。

これらが主な循環器内科の守備範囲です。当院循環器内科は心臓血管外科と協力連携し、24時間365日体制で診療にあたっております。上に述べました症状にこころあたりがありましたら、気軽に受診ください。よろしくお願いいたします。

### 外来診察担当医表

|    | 月   | 火  | 水                  | 木  | 金  |
|----|-----|----|--------------------|----|----|
| 午前 | 五十嵐 | 土井 | 並木                 | 土井 | 村田 |
| 午後 |     |    | ペースメーカー外来<br>(第4週) |    | 佐藤 |

## 海外派遣出発式

6月15日の午前9時より、神戸赤十字病院の玄関前に於いて、岡田亜紀看護係長、森智恵子看護師の海外派遣出発式が行われました。

岡田係長は、平成22年6月16日から平成22年7月20日までの1ヶ月間、ハイチ共和国のポルトフランス及びレオガンへ派遣されます。現地ではハイチ大地震における被災者への医療救護活動を行います。

森さんは、平成22年6月23日から平成22年12月21日までの半年間、フィリピン共和国のキリノ州へ派遣されます。以前に当院から派遣されていた知野見看護係長や西村看護師と同様に、フィリピン赤十字社の保健事業の戦略作り、仕組み及び事業運営にかかる作業の支援を行います。

お二人とも、環境の異なる海外生活で苦勞が絶えないと思いますが、選ばれし日本代表として、がんばって下さい。職員一同、熱烈なサポーターとして応援しています。元気でいつてらっしゃい!!!



## お薬 四方山話

19

～ 期待の糖尿病新薬について ～

薬剤部 池井 健

わが国では20歳以上の4.7人に1人は糖尿病の可能性があると言われていました。もはや糖尿病は国民病と言っても過言ではありません。

そこで今回は糖尿病の新薬であるインクレチン関連薬について紹介します。

インクレチンとは、食後に腸管から分泌されるホルモンの総称です。食事をすると血糖値が上昇しますが、インクレチンは血糖値のレベルに合わせてインスリン（血糖値を下げるホルモン）の分泌を促し、またグルカゴン（血糖値を上げるホルモン）の分泌を抑え、血糖値を下げる働きをします。

代表的なインクレチンには、「GIP」と「GLP-1」があります。これらは、血糖値が低いときには、インスリン分泌をほとんど促進させず、食後高血糖の時にインスリン分泌を促進させるので、低血糖も起こしにくいです。まことに都合のいいホルモンなのですが、「DPP-4」という酵素によって速やかに分解され効果を失います。このDPP-4を阻害してやれば、インクレチンは血中に当分存在して、血糖降下作用を発揮してくれることになります。そこで登場したのが、「DPP-4阻害薬」（のみ薬）です。これは昨年末に発売されました。また、インクレチンの構造を変化させてDPP-4に分解されにくくした「GLP-1アナログ製剤」（注射薬）が今年初頭に発売されました。

これらは、単剤では低血糖を起こしにくく、食欲を抑制する、肥満を抑制するなどの効果があるとされており、現場からも非常に期待されています。しかし使用経験が少ないため未知の副作用が出てくる危険性は考えられ、副作用情報にはアンテナを十分に張っておくことが大事です。

## 栄養課だより

23

## HAT健康セミナー

を開催しました

栄養課長 福井 俊弘



平成22年6月22日、第23回HAT健康セミナー「いつもの食事でダイエット」と題して、体型が気になる、医者から痩せるように言われている、ワンサイズダウンしたい。食べ過ぎつて解ついても減らせない。そんな思いの人が興味を持っているダイエットについて楽しくて笑える教室を開催いたしました。

「チョット待て、その一口がブタになる。」一口くらい食べても大丈夫！ 食べれば食べるほど腹が減ります、油断は禁物です。

栄養士さん、これだけ食べたらやせる方法を教えてください。来るべき災害にそなえてラクダのようにコブを作っています。（二段腹）

今日は七夕だからお腹いっぱい食べて、明日の朝まで断食します。…なんて笑えるコメントを入れながら納得していただけたでしょうか？

「ダイエットは、腹八分目」食事と運動が大事です。楽しくて記憶に残る話を提供できるように栄養課スタッフも勉強してまいります。



### 基本方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重し、根拠に基づいた、安心と満足が得られる医療を提供します。
2. 地域医療機関と連携して、地域全体で一貫した医療を提供します。
3. 救急医療、災害救護・国際救援活動を行います。
4. 内外の医療従事者の育成に努めます。
5. わたしたちは、日々研修・研鑽し明るく活力ある職場づくりに努めます。

### 神戸赤十字病院「患者の権利に関する宣言」

神戸赤十字病院は、医療の中心は患者さまであり、医療行為が患者さまと医療関係者との信頼関係の上に成り立つものであることを深く認識し、ここに、「患者の権利に関する宣言」を制定いたします。

当院の全職員は、この「患者の権利に関する宣言」を守り、患者さまの医療に対する主体的な参加を支援してまいります。

1. 一人の人間として、その人格・価値観などを尊重され、医療提供者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。
2. だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 病気、検査、治療、見通しなどについて、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報を受ける権利があります。
4. 十分な説明と情報提供を受け、納得したうえで、検査や治療方法などを自分の意思で選ぶ権利があります。
5. 自分が受けている診断や治療について、他の医師の意見を求める権利があります。(セカンドオピニオン)
6. 自分が受けている医療を知るために、診療記録の開示を求める権利があります。
7. 研究途上にある医療に関して、目的や危険性などについて十分な情報提供を受けたうえで、それを受けるかどうか決める権利と、何らの不利益を受けることなくいつでも中止を求める権利があります。
8. 診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。

# タンザニア難民キャンプでの活動を振り返って

看護係長 知野見 優紀子

アフリカの東部に位置するタンザニア。首都ダルエスサラムから、さらに小型飛行機で3時間。降り立った飛行場は、赤土の滑走路にトタン屋根の小屋が一つあるだけで、「これが飛行場?」ここで私は1年間生活するのだから、という驚きと不安で、重い荷物がさらに重く感じたのを覚えています。難民キャンプはブルンジとの国境沿いに位置し、タンザニアの村からは少し離れたところにあります。

4万人が生活するキャンプの中に、入院施設を持つ赤十字の病院があり、病院の中は絶えず患者さんや家族で賑わっている状態でした。初めて小児病棟に足を踏み入れたときに、病院の匂いではなく家畜小屋の匂いがし、初めてカルチャーショックというものを感じました。

キャンプ内にある赤十字の病院では、無料で診療、治療、薬の処方を行っており、それらは全て、日本赤十字やスペイン赤十字、アメリカ赤十字からの支援を受けています。キャンプの病院では、マラリアや呼吸器感染症をはじめ、HIVや性感染症の治療・予防教育、家族計画指導、低栄養児への食事療法・治療、ワクチン接種や小児・妊産婦検診にも力を入れていました。治療に必要な薬剤や診療材料は、1700km離れた都市部で購入され、現地へ調達されます。雨季・乾季で必要な薬剤も異なるため、時期に見合った薬剤が必要数だけ購入されるよう、各難民キャンプを回ってスタッフとの連絡調整会議を行いました。また、タンザニアでは医療機器は国外から調達しているため、機器が故障したときには修理できる技術者が国内にいないことも大きな問題で、故障すれば廃棄という形になってしまいうようでした。そして派遣期間中、唯一あった携帯型の超音波医療器が故障しました。高額なため再購入することは難しいため、国外での修理サービスを受ける



病棟ラウンドで産婦さんと話をしているところ

受けられるよう英国の会社へ連絡をとり交渉を行った結果、無料で修理サービスを受けられることになりました。タンザニア赤十字のスタッフが大変喜んでくれたことは、言うまでもありません。

全ての支援活動は、タンザニア赤十字スタッフによって運営されており、私は全体の事業・予算の運営管理をすることが主な任務でした。それでも、自分の目で現場を見なければと、病棟ラウンドは毎日欠かさず出向きました。難民キャンプで毎日活動していると、「お腹がすいた...何か食べるものが欲しい」という難民からの訴えを耳にすることが多く、最初は何て言葉を返すべきか困ることもありました。しかし、「赤十字を通して支援することしか私にはできない」ことをはっきり伝え、赤十字の支援をアピールしました。



難民キャンプでの予防教育活動に参加

難民の中には両親を目の前で殺され、必死でタンザニアへ逃げてきた人も沢山います。未だに親、兄弟がどこにいるのかもわからずに生活している人達もいます。「自分たちには未来がない。難民キャンプの中で何もしないで、ただ生きるだけ。いつ自国に帰れるのか、平和な国に暮らせるのか、それさえわからない。でも、現状を見に来てください。あなたに感謝します」という声に、同世代に生まれたけれど、生まれた国が違うだけで、こんなにも違う生き方なのか...と真摯に受け止めました。世の中の皮肉さ、矛盾、生きていくことの大変さを知っている彼らから教えてもらうことが多く、紛争や戦争で傷ついた人々への支援について改めて考えさせられました。

今回の派遣にあたり、神戸赤十字病院の皆様に温かく御支援を頂きましたことに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society  
神戸赤十字病院

神戸赤十字病院広報誌 HAT CROSS 2010 Vol.25

発行日 2010年8月

発行者 神戸赤十字病院 広報委員会

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目3番1号

TEL (078) 231-6006(代) FAX (078) 241-7053

ホームページ <http://www.kobe.jrc.or.jp/>